

2013年5月10日

(本資料は、ロンドンにて2013年5月8日付で発表した内容の参考訳です。)

スタンダードチャータードPLCは、5月8日付で、2013年度第1四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

当行グループ最高経営責任者ピーター・サンズは、次のように述べています。

「欧米や日本による量的緩和拡大が、アジア全体で市場の流動性と利益率に影響をもたらしているにもかかわらず、当行グループは力強い業績を達成し続けていることをご報告いたします。当行は、長年にわたる顧客重視経営の推進、盤石なバランスシートの維持、コストとリスクの厳格な管理の徹底を通して、今後も事業の成長を目指してまいります。当行は健全な市場を基盤としており、事業の将来性については引き続き自信を持っております。」

2013年、当行は非常に良いスタートを切りましたが、その勢いは第1四半期後半に入るとやや鈍化しました。第1四半期の営業収益は、前年同期より若干の増加に止まりました。顧客基盤は順調に拡大しましたが、その効果は2012年通期決算発表時の予想通り、利鞘とスプレッドの収縮が第1四半期に入っても継続したこと、自己勘定取引による収益が減少したことなどにより、一部相殺されました。

業績を地域別に見ると、香港・アフリカは前年同期比で2桁台の営業収益の伸び率を達成しましたが、韓国・シンガポールでは業績が低迷しました。恒常通貨ベースでは、インドの営業収益は1桁台前半の伸び率となりました。当行は、インド顧客の他地域における事業展開支援を引き続き強化しました。

費用は1桁台前半の伸び率となりました。人件費の伸び率は、行員総数約560名の増強、それに伴う給与総額の増加を反映し、1桁台後半でした。

第1四半期のクレジットコストは、コンシューマーバンキング部門におけるクレジットコストの増加を反映し、前年同期の水準を上回りました。しかし、第1四半期のランレート(過去のデータを基準にした予測値)は、2012年の上期・下期の水準を数千万ドル規模で下回りました。

以上の結果から、当行の第1四半期の営業利益は、2012年同期を若干下回りました。

全体的に見て、当行の事業基盤は引き続き盤石であり、多様性に富んでいます。既に2013年第2四半期に入っておりますが、4月の営業収益は通常の水準に戻りました。徹底したコスト管理は、今後も続けてまいります。韓国等で厳しい市場環境が続いていますが、2013年通期の税引き前利益については、従来予想の達成は十分に可能だという見通しに変更はありません。

当行は引き続き盤石な資本基盤、高水準の流動性、高い信用格付けを誇っております。

### コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門の営業収益は、前年同期比で1桁台後半の伸び率となりました。

営業収益の伸びは、引き続き部門全体で顕著です。クレジットカード・個人向け融資事業・不動産融資事業が2桁台の伸び率を記録する一方で、ウェルスマネジメント事業は投資家心理の改善を受け、2012年ランレートに対する伸び率は1桁台後半でした。預金残高の順調な伸びが続く預金事業ですが、その営業収益は利鞘縮小の継続を反映し、1桁台半ばの減少となりました。

費用の伸び率は1桁台後半となりました。固定経費を厳しく管理することで、新規投資余力の増大に努めています。

コンシューマーバンキング部門のクレジットコストは、総残高の増加・無担保融資の斬新的拡大・融資セールスのタイミングなどを考慮すると、概ね予想の範囲内に収まりました。例外は韓国で、クレジットコストの水準は、裁判所への個人再生手続き(PDRS)申請の急増などのため、予想を超えました。コンシューマーバンキング部門全体のクレジットコストは、前年同期比で2桁台の増加率となると同時に、2012年下半期の四半期別ランレートを数千万ドル上回る結果でした。

結果として、コンシューマーバンキング部門の第1四半期営業利益は、1桁台半ばの減少となりました。

### ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門では、第1四半期の後半に利鞘とスプレッドの収縮圧力が高まりましたが、極めて好調な顧客需要と、当行が事業展開する市場全体における取引の堅調な伸びを反映し、業績の拡大が続きました。

顧客取引に伴う収益は、利鞘収縮にもかかわらず、1桁台半ばの伸び率となりました。これは、ホールセールバンキング部門が取引高を力強く増やし、結果として市場シェアを拡大させたことから、幅広い顧客需要を享受することができたためです。しかし、プリンシパルファイナンス事業の低迷と、ALM収益が予想より弱い結果となったことを反映し自己勘定取引の収益が低下したため、同

部門の業績拡大は相殺される形となりました。同部門の営業収益は、最終的には1桁台半ばの減少でした。

トランザクションバンキング事業の収益は、非常に好調なトレードバランスの伸張効果を利鞘の低下が相殺したことから、1桁台半ばの減少となりました。トレードファイナンスとキャッシュマネジメントの利鞘は、2012年同期比でそれぞれ16%と14%下がりました。

コーポレートファイナンス事業では好調な業績が持続し、収益の伸び率は前年同期比で力強い2桁台となりました(2012年通期の伸び率を既に超えています)。取引需要は、非常に高い水準で引き続き維持されています。

フィナンシャルマーケット事業の収益は、前年同期比で1桁台半ばの減少となりました。顧客取引に伴う収益は、FXオプション・金利・キャッシュFXの出来高の著しい増加がスプレッドの収縮を相殺したことから、1桁台前半の伸びとなりました。

ALM収益は、金融緩和政策による低金利と、再投資利回りの低下の影響を受け、前年同期比で2桁台の減少でした。

ホールセールバンキング部門の費用は、前年同期比で概ね横ばいで推移しました。固定経費の厳格な管理を徹底することで、新規投資余力の増大を引き続き図ってまいります。

ホールセールバンキング部門の資産の質は、減損費用が予想通り低水準に止まっていることから、引き続き良好です。しかし、当行は資産の質の維持に今後も努めてまいります。インド・中東における資産の質については、特に注視しています。

営業収益・費用・クレジットコストの現状を反映し、ホールセールバンキング部門の営業利益は、結果的に1桁台半ばの減少となりました。

## 会計処理の変更

国際会計基準審議会 (IASB) が公表した「国際財務報告基準＝IFRS第11号(ジョイント・アレンジメント)」により、当行のインドネシアにおける合弁事業Permataにかかる会計処理について、2013年及びそれ以降は、比例連結法から持分法に変更されます。この変更は、2013年度中間決算において、遡及的修正再表示方式で反映させます。尚、会計処理の変更は、当中間経営ステートメントにも反映されています。

この会計処理の変更を2012年度決算に適用すると、営業収益は2億8千7百万米ドル、費用は1億7千4百万ドル、減損費用は2千3百万ドル、税引き前利益は9千万ドル、それぞれ減少します。同様に、関連会社からの利益は6千5百万米ドルの増加となり、法人税等は2千5百万米ドルの減少となります。ただし、当行の2012年度の税引き後利益に変更は生じません。

次期業績予想については、6月下旬の発表を予定しております。

詳細につきましては、以下の担当者までご連絡ください。

James Hopkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7151

Jon Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

[Ca.Japan@sc.com](mailto:Ca.Japan@sc.com)

-----  
本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性・実現性を保証するものではありません。また、本資料には、「予測」「目標」「見通し」「傾向」「計画」「目標」「評価」「意見」「可能性」他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績・計画・目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関し、いかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼性の高い過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。